

舞鶴市内の中小企業景況調査のまとめ

今期	令和8年 4月	～6月期の実績
来期	令和8年 7月	～9月期の見通し

舞鶴商工会議所
中小企業相談所

この調査は、令和8年6月に実施した4月～6月の中小企業景況調査に係るアンケート（毎四半期実施）の結果をまとめたもので、今回の調査対象は市内の中小企業121事業所（前回121事業所）、有効回答数は84事業所（前回89事業所）で回収率69.4%（前回73.6%）でした。

業種別有効回答企業数は次のとおりです。

業 種	回答企業数	構成比（%）
機 械 金 属 業	10	11.9
建 設 業	13	15.5
繊 維 工 業	3	3.6
木 材 業	5	5.9
水 産 加 工 業	7	8.3
サ ー ビ ス 業	20	23.8
小 売 業	15	17.9
卸 売 業	11	13.1
合 計	84	100

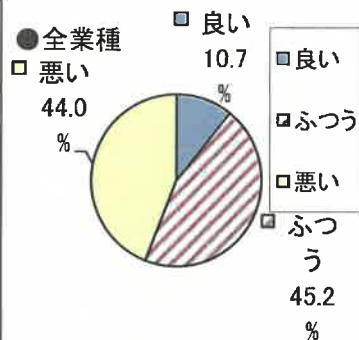
（注）本文のDIとは「増加」「好転」したとする企業割合から「減少」「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

【業況の動向】

今期の業況は、全業種でマイナス33.3となり、前期から4.9ポイント持ち直したものの、依然として「悪い(44.0%)」が「良い(10.7%)」を大きく上回る厳しい状況が続いている。

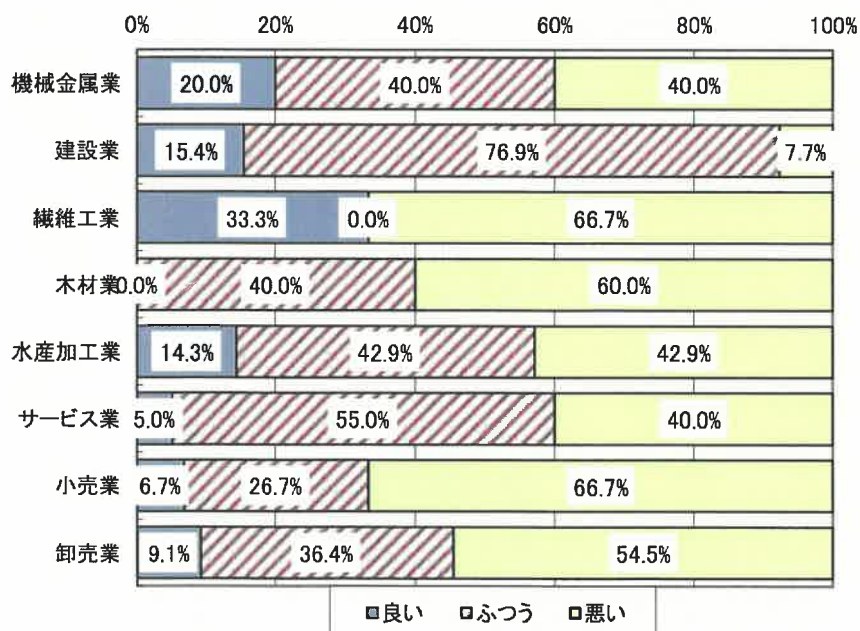
業種別では、建設業が唯一プラスに転じた一方、機械金属業、木材業、小売業は大幅な悪化が見られる。

来期の見通しは、全業種でマイナス17.5と、卸売業や繊維工業などを中心に緩やかな改善の傾向が見込まれているが、水産加工業は大幅な悪化が見込まれている。



業況DI(「良い」-「悪い」)

	実 績 (今期の水準)					来期見通し (前年 同期比)	来期見通し (今期比)
	令和7年 4~6月	令和7年 7~9月	令和7年 10~12月	令和8年 1~3月	令和8年 4~6月	令和8年 7月~9月	令和8年 7月~9月
全業種	-36.0	-38.7	-29.5	-38.2	-33.3	-22.0	-17.5
機械金属業	-23.1	-15.4	0.0	-8.3	-20.0	-11.1	-12.5
建設業	-20.0	-18.8	-6.3	-17.6	7.7	0.0	0.0
繊維工業	33.3	-100	-66.7	-50.0	-33.3	33.3	0.0
木材業	-50.0	-40.0	-40.0	-40.0	-60.0	-20.0	-40.0
水産加工業	-83.3	-71.4	-28.6	-66.7	-28.6	-57.1	-71.4
サービス業	-42.1	-33.3	-33.3	-50.0	-35.0	-35.0	-20.0
小売業	-37.5	-43.8	-41.2	-40.0	-60.0	-53.3	-26.7
卸売業	-46.2	-58.3	-50.0	-58.3	-45.5	20.0	20.0

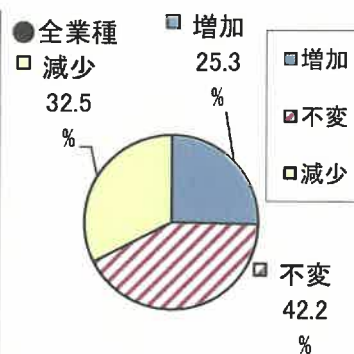


【売上額の動向】

今期の売上額は、全業種でマイナス7.2となり、前期から28.0ポイント大幅に持ち直した。全体の4分の1を超える25.3%の事業者が「増加」と回答している。

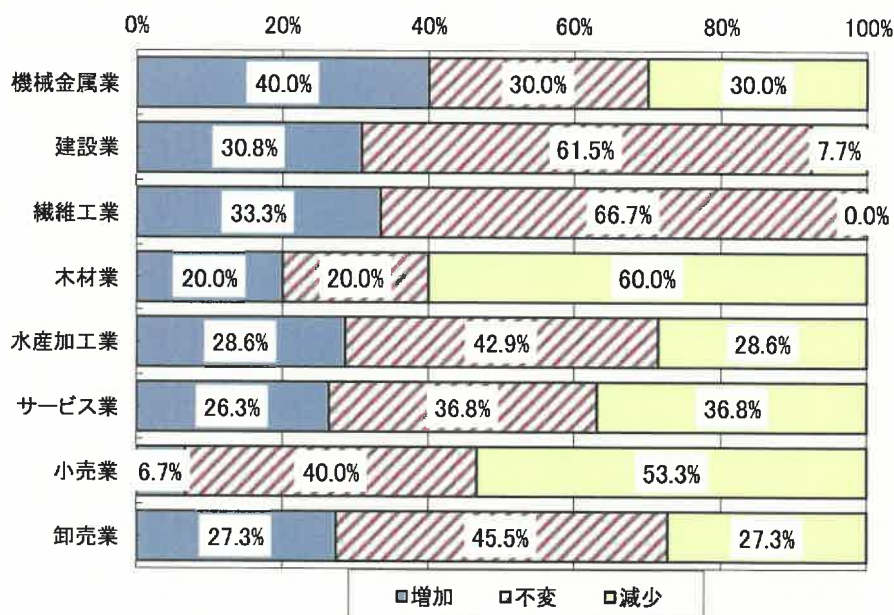
業種別では、機械金属業、建設業、繊維工業がプラスとなり牽引した一方、小売業は依然として厳しい減少傾向が続いている。

来期の見通しは、全業種でマイナス14.6と再び低下する予想となっており、繊維工業や卸売業で好調が続くものの、小売業や水産加工業を中心に慎重な見方が強まっている。



売上額DI(「増加」-「減少」)

	実 績 (前年同期比)					来期見通し (前年 同期比)
	令和7年 4月～6月	令和7年 7月～9月	令和7年 10月～12月	令和8年 1月～3月	令和8年 4月～6月	令和8年 7月～9月
全業種	-13.6	-17.6	-16.1	-35.2	-7.2	-14.6
機械金属業	0.0	23.1	25.0	-16.7	10.0	-11.1
建設業	0.0	-6.7	-25.0	5.9	23.1	-7.7
繊維工業	66.7	33.3	33.3	-100.0	33.3	66.7
木材業	-25.0	-40.0	-40.0	-60.0	-40.0	-20.0
水産加工業	-66.7	-57.1	-14.3	-66.7	0.0	-42.9
サービス業	-22.2	-4.8	-15.0	-52.6	-10.5	-5.3
小売業	0.0	-37.5	-31.3	-40.0	-46.7	-60.0
卸売業	-38.5	-54.5	-28.6	-41.7	0.0	18.2

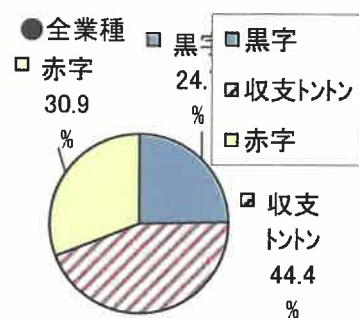


【採算(経常利益)の動向】

今期の採算は、全業種でマイナス6.2となり、前期から8.2ポイント持ち直した。全体の44.4%が「収支トントン」を確保している。

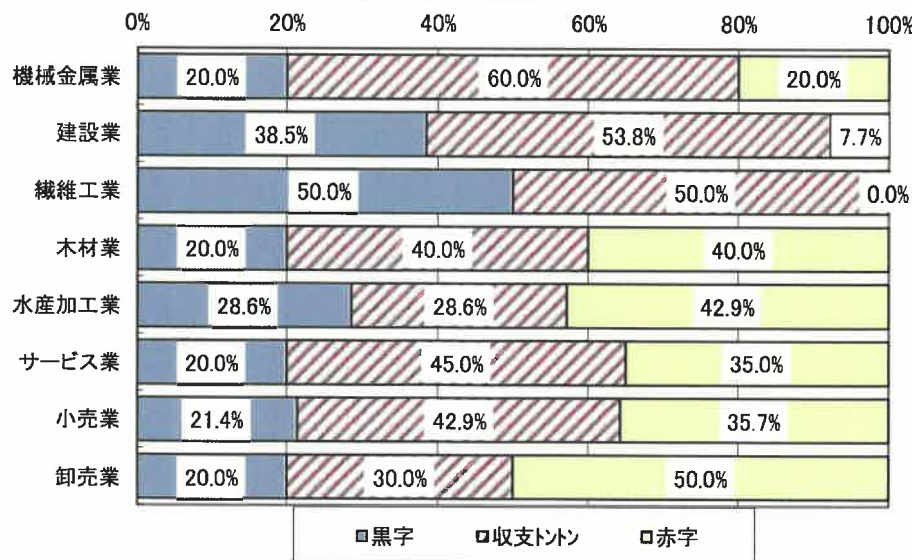
業種別では、建設業がプラス圏に回復し、機械金属業も均衡水準に戻したものの、繊維工業、木材業、卸売業などを中心に悪化傾向が続いている。

来期の見通しは、全業種でマイナス33.8と大幅な悪化を見込んでおり、特に水産加工業、サービス業、小売業などで大幅な採算悪化が懸念されており、今後の収益性確保に向けた警戒感が高まっている。



採算(経常利益)DI(「黒字」-「赤字」)

	実 績 (今期の水準)					来期見通し (前年 同期比)
	令和7年 4月～6月	令和7年 7月～9月	令和7年 10月～12月	令和8年 1月～3月	令和8年 4月～6月	令和8年 7月～9月
全業種	-7.9	-10.8	-14.0	-14.4	-6.2	-33.8
機械金属業	0.0	0.0	-9.1	-25.0	0.0	-22.2
建設業	-20.0	-18.8	-6.3	-17.6	7.7	-7.7
繊維工業	33.3	-100.0	-66.7	-50.0	-33.3	0.0
木材業	25.0	-20.0	-40.0	40.0	-20.0	-20.0
水産加工業	-16.7	0.0	0.0	0.0	-14.3	-57.1
サービス業	-15.8	0.0	-9.5	-23.8	-15.0	-52.6
小売業	-18.8	-25.0	-11.8	-40.0	-14.3	-50.0
卸売業	-23.1	-16.7	-23.1	-8.3	-30.0	-20.0

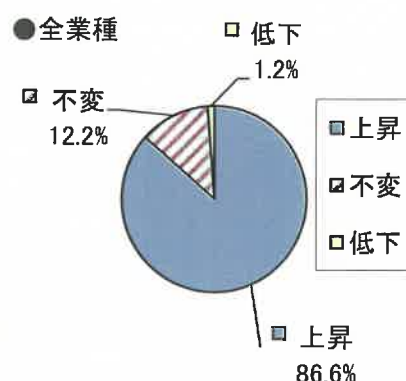


【材料仕入単価の動向】

今期の材料仕入単価は、全業種で85.4と前期からさらに6.3ポイント上昇し、高水準のコスト高が続いている。全体の86.6%の事業所が「上昇」と回答しており、低下はわずか1.2%にとどまる。

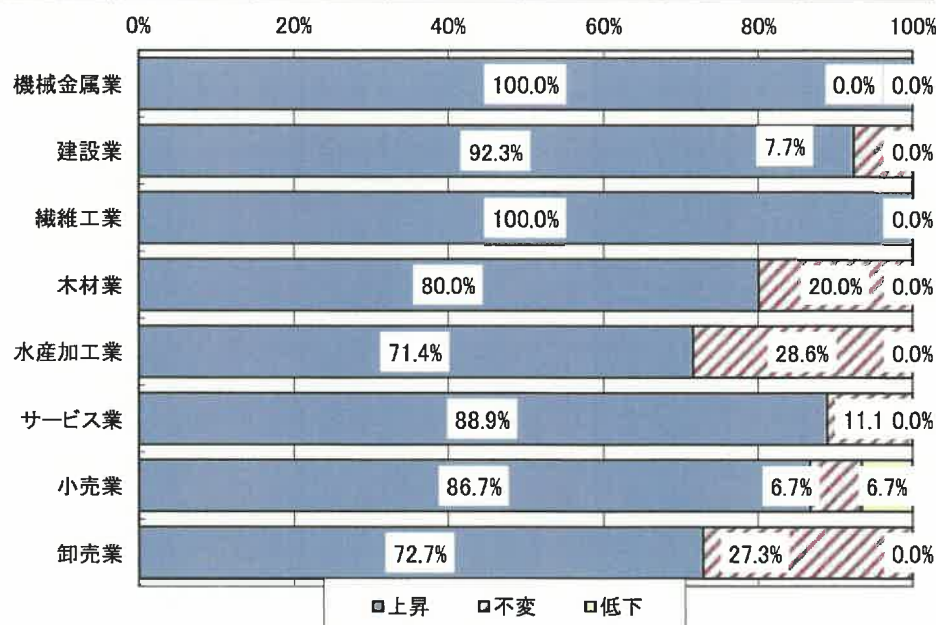
業種別では、機械金属業、繊維工業で全事業所が仕入価格上昇と回答したほか、建設業やサービス業など、全業種において厳しいコスト高に直面している。

来期の見通しも84.0と依然として極めて高く、仕入れコストの上昇圧迫に終息の兆しは見られない。



材料仕入単価DI(「上昇」-「低下」)

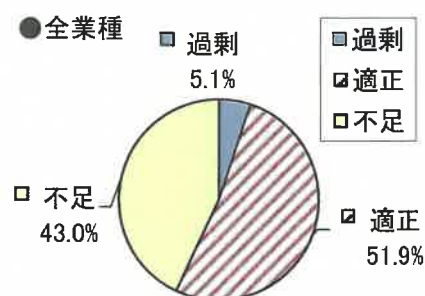
	実 績 (前年同期比)					来期見通し (前年同期比)
	令和7年 4月～6月	令和7年 7月～9月	令和7年 10月～12月	令和8年 1月～3月	令和8年 4月～6月	令和8年 7月～9月
全業種	75.6	67.4	72.0	79.1	85.4	84.0
機械金属業	76.9	69.2	58.3	75.0	100.0	100.0
建設業	86.7	62.5	87.5	82.4	92.3	92.3
繊維工業	66.7	100.0	100.0	50.0	100.0	100.0
木材業	50.0	40.0	60.0	100.0	80.0	60.0
水産加工業	83.3	42.9	85.7	66.7	71.4	71.4
サービス業	68.8	71.4	68.4	88.2	88.9	83.3
小売業	68.8	81.3	70.6	73.3	80.0	73.3
卸売業	84.6	63.6	64.3	75.0	72.7	90.9



【雇用の動向】

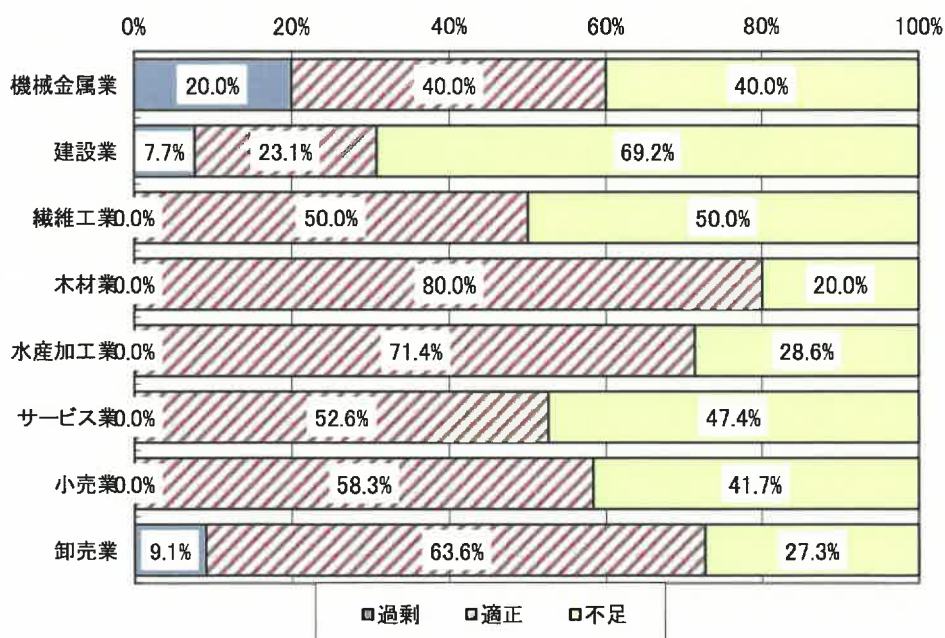
今期の雇用は、全業種でマイナス38.0と前期から1.2ポイント不足幅が拡大し、人手不足が続いている。51.9%は「適正」と回答しているものの、「不足」と回答した事業所も43.0%にのぼる。

業種別では、建設業と繊維工業で特に不足感が継続しているほか、サービス業、小売業でも人手不足感が強まっている。全業種でマイナス圏となっており、人手不足の慢性化が懸念される。



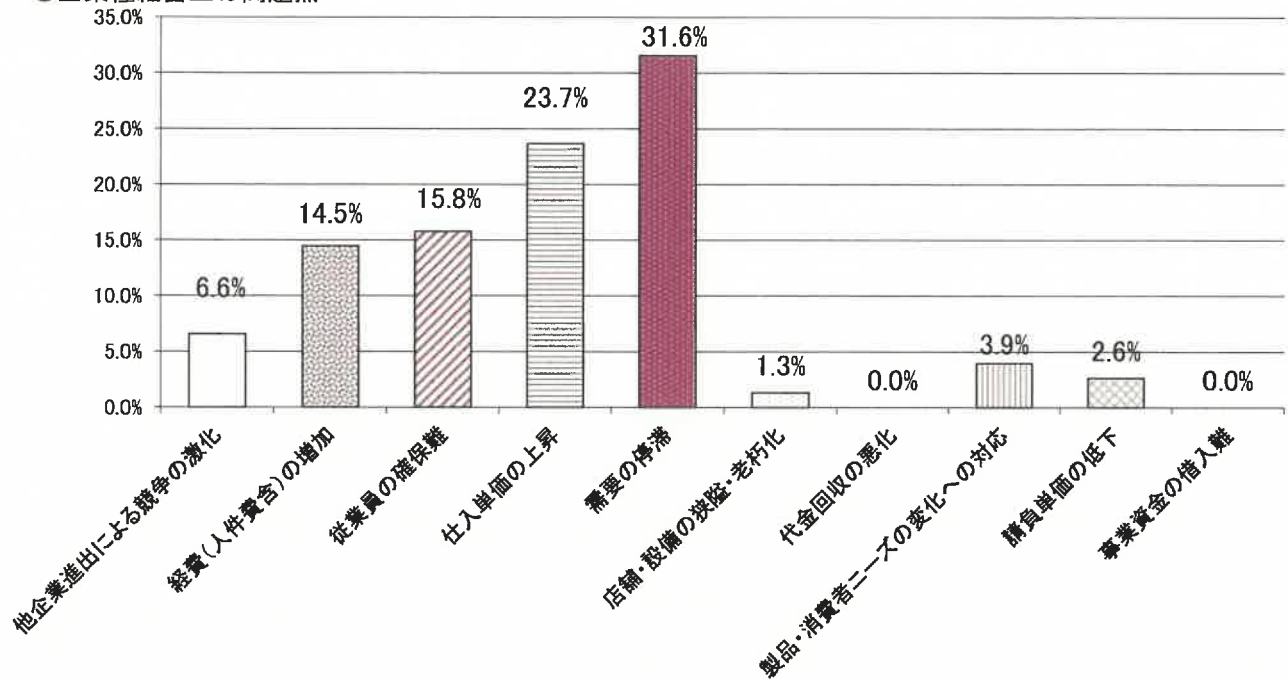
雇用DI(「過剰」－「不足」)

	実績 (今期の水準)				
	令和7年 4月～6月	令和7年 7月～9月	令和7年 10月～12月	令和8年 1月～3月	令和8年 4月～6月
全業種	-31.8	-26.9	-35.1	-36.8	-38.0
機械金属業	-30.8	-30.8	-33.3	-25.0	-20.0
建設業	-60.0	-68.8	-75.0	-64.7	-61.5
繊維工業	-66.7	-66.7	-66.7	-50.0	-50.0
木材業	0.0	20.0	-20.0	0.0	-20.0
水産加工業	-16.7	-14.3	-28.6	-33.3	-28.6
サービス業	-33.3	-38.1	-38.1	-45.0	-47.4
小売業	-23.1	0.0	-6.3	-15.4	-41.7
卸売業	-15.4	0.0	-21.4	-33.3	-18.2



【経営上の問題点】

●全業種経営上の問題点



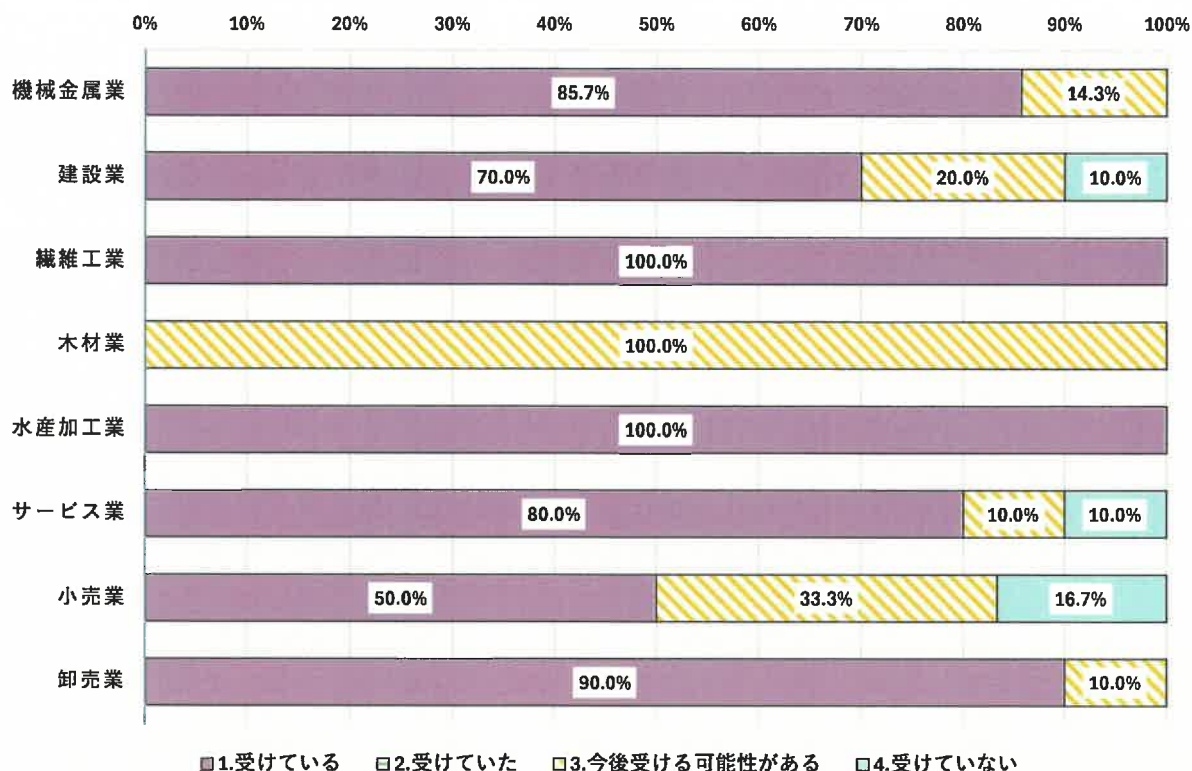
●業種別経営上の問題点

機械金属業	経費(人件費含)の増加	25.0%	他企業進出による競争の激化	12.5%
	従業員の確保難	25.0%	仕入単価の上昇	12.5%
	需要の停滞	25.0%		
建設業	仕入単価の上昇	33.3%	需要の停滞	25.0%
			他企業進出による競争の激化	16.6%
			従業員の確保難	16.6%
繊維工業	製品・消費者ニーズの変化への対応	66.7%	経費(人件費含)の増加	33.3%
木材業	需要の停滞	60.0%	従業員の確保難	20.0%
			仕入単価の上昇	20.0%
水産加工業	仕入単価の上昇	50.0%	他企業進出による競争の激化	16.7%
			従業員の確保難	16.7%
			請負単価の低下	16.7%
サービス業	仕入単価の上昇	33.3%	経費(人件費含)の増加	27.8%
			従業員の確保難	22.2%
小売業	需要の停滞	50.0%	仕入単価の上昇	30.0%
			他企業進出による競争の激化	10.0%
			従業員の確保難	10.0%
卸売業	需要の停滞	50.0%	仕入単価の上昇	30.0%
			他企業進出による競争の激化	10.0%
			従業員の確保難	10.0%

参考

上位 3位の項目推移	
令和8年1月～3月	①需要の停滞 29.1% ②従業員の確保難 19.8% ③経費(人件費含)の増加 16.3%、仕入単価の上昇 16.3%
令和7年10月～12月	①需要の停滞 29.5% ②従業員の確保難 18.8% ③経費(人件費含)の増加 17.0%
令和7年7月～9月	①需要の停滞 31.6% ②仕入単価の上昇 15.8%、経費(人件費含)の増加 15.8%、従業員の確保難 15.8%
令和7年4月～6月	①需要の停滞 28.6% ②仕入単価の上昇 25.0% ③従業員の確保難 16.7%

【中東情勢にともなう原油価格高騰の影響】



機械金属業	塗料の調達困難 仕入単価上昇 オイル類の値段が2倍になっているだけでなく、入手困難な種類もあり代替品を使用中 材料、工具等仕事に必要なものも値上がりしている 値上げ、欠品が多くなってきている
建設業	材料費の値上げ、納期の遅れ ほぼあらゆる資材、製品の値上げ。価格転嫁もしているが、トータルコストは上昇の一途。 燃料費 管材、器具で入荷困難なものがある。 材料の高騰、材料の品薄 塩ビパイプ、接着剤、塗料などナフサ関連建材の価格上昇と調達難
繊維工業	ナイロン系資材が入手困難。入荷時期未定
水産加工業	紙類やPPパーチの値上がり 包材不足、原油価格上昇により原料(すりみ)の高騰 石油系材料の高騰(包装資材) スチロール、レジ袋などの値上がり
サービス業	資材、消耗品、光熱費、食材価格の高騰 ガソリン代や包材の価格上昇 船の燃料費(重油) 手に入りにくい消耗品がある。
小売業	建築材料の仕入れが困難 灯油価格の高止まり、住宅設備の値上げ、ナフサショックによる納期の遅れなど
卸売業	各社メーカー、輸入商社の価格改定が多く、値段の転嫁が難しい状況が続いている。 品物が入荷しづらい 製品価格の上昇、欠品・入荷不安定。 重機に使用する燃料の高騰による経費の増加 ナフサを原料とする商品の入荷が非常に少なく、商売にも多大な影響がある。